

# ツーリング支援のためのライダーとオートバイを乗せて移動する夜行列車のデザイン提案

分類: 卒業研究

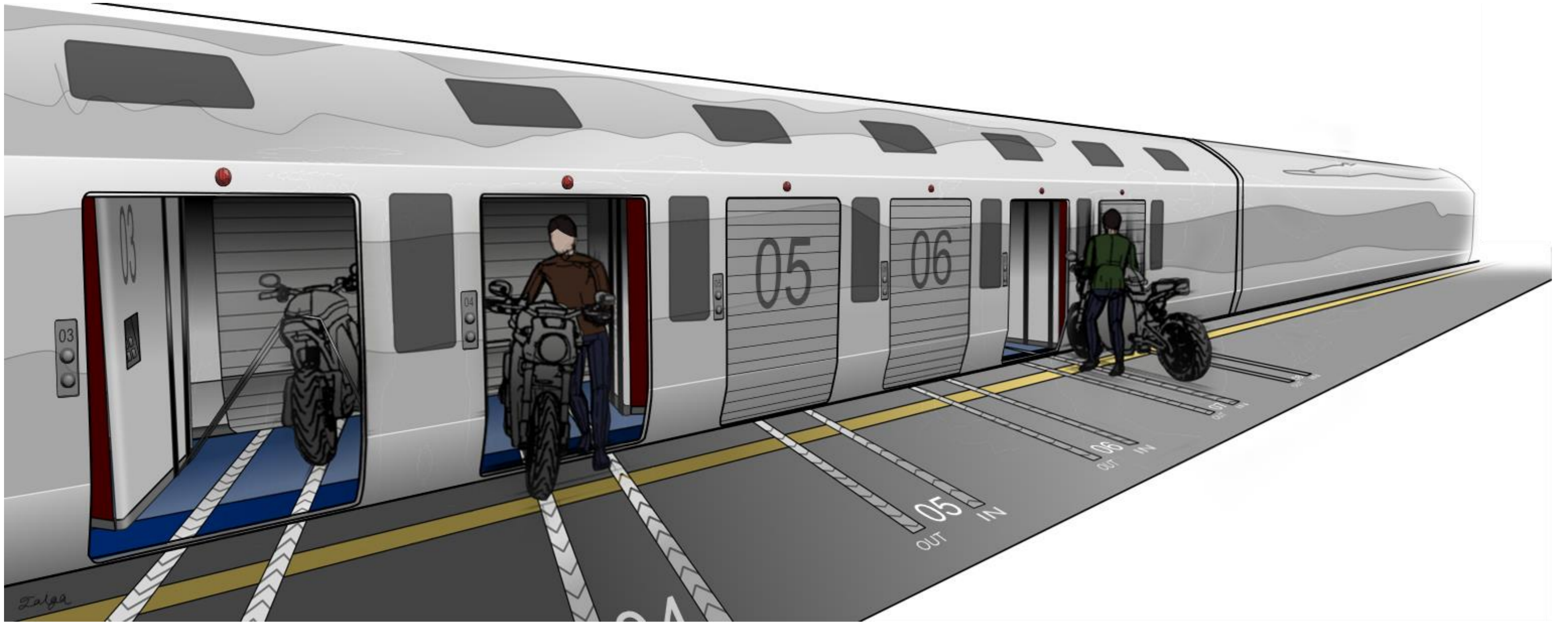
作品/論文: 作品

制作年度: 2021年度

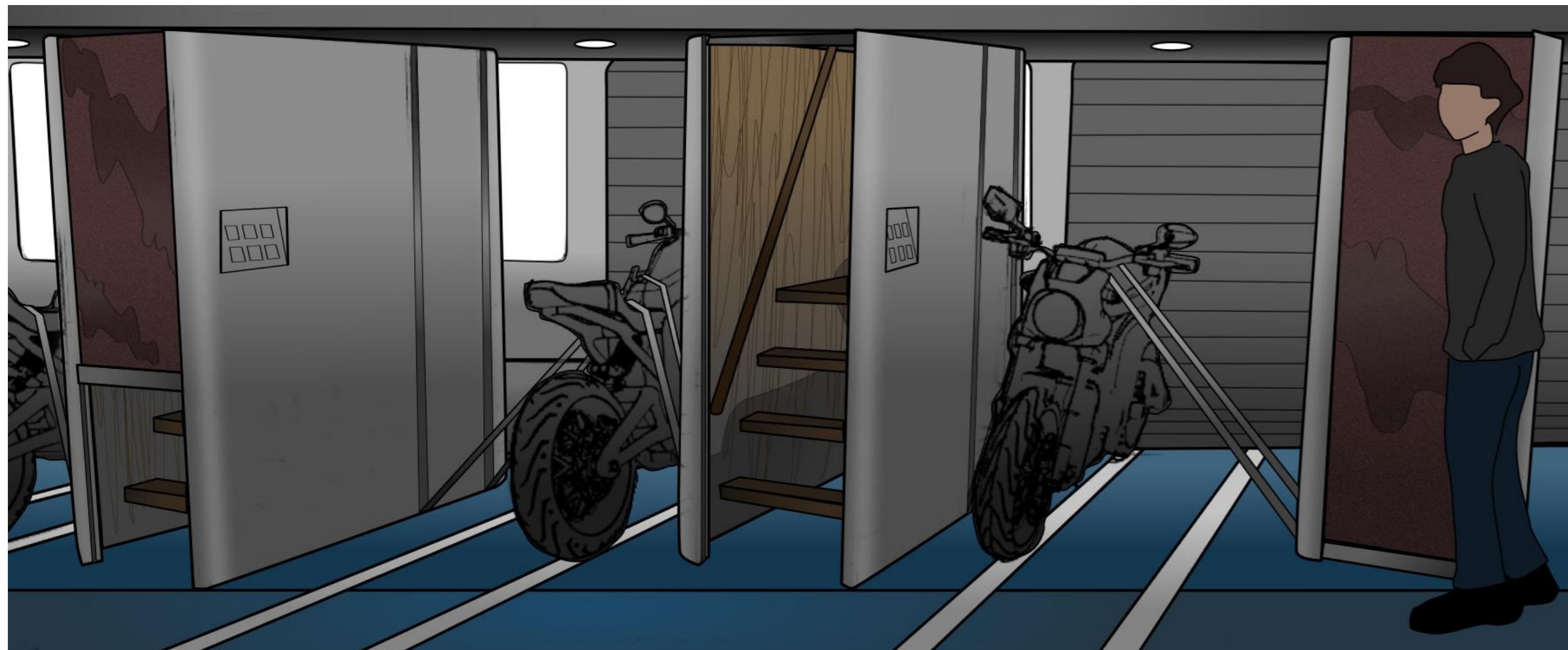
課題概要: トランスポーテーションデザイン

Design of a Sleeper Train that Carries Riders and Motorcycles for Touring Support

川崎大雅 KAWASASKI Taiga 2018年入学 | 工業設計学科 Department of Industrial Design



対応駅を設置しホーム上から出し入れする



平屋部分 オートバイ置き場



2階部分 客室

ヒアリング調査から大学生ライダーにおけるオートバイの魅力とは愛車でツーリングを楽しむ際に最も拡張されるものと考えられた。愛車でツーリングを楽しむ機会を増加させることが大学生ライダーにとって有効だと考え、「愛着のあるオートバイでどこにでも行けるツーリング支援サービス」について研究した。「どこにでも行ける」を実現する方法として既存の交通手段を発展させて創出した「ライダーとオートバイを積載するモビリティ」によるサービスを構想した。タクシーやバス、貨物コンテナなどの複数の交通手段を応用したものを構想し比較した後、最終的に大学生にとって高い水準の評価を得た夜行列車型サービスを検討した。

ライダーがオートバイを車両の両側面から搬入・出場できるように、シャッター式ゲートをバイク一台に対して設けることとした。これにより、1台単位で経由地の駅で乗り降りでき多用途なツーリングニーズを満たせる点でカーフェリーよりも優位性がある。また、大型のオートバイを多く車内に収めつつ利用者の移動通路をふさがらないためには、枕木に対して30°の角度をもって駐車することが妥当であり、斜めの対角線上で向かい合わせになるようにシャッター位置や幅を調整し設置した。1階の平屋部分をオートバイ置き場とし、階段を内蔵する壁で適度に区画を区切り、オートバイが通路から見られるようにしてオートバイを起点としたコミュニケーションの可能性を創出している。オートバイの固定方法として、自動でベルトが降りて垂直方向の力を加えることでどの向きや位置でも固定できる仕組みを考案した。客室は個別の階段で登った先にある個室とし、階段の踊り場で立って着替えることができる高さを確保した。ツーリングの疲れを回復する安らぎの空間としてシングルサイズのベッドを設け、さらに木を基調としたぬくもりが感じられる空間とした。